☆みんなのであいのすぺーす☆

むさしのヒューマン・ネットワークセンターだより

VOL.28　2008年3月

地域であなたの専門性が求められています
人材紹介システム登録開始！

当センターはいろいろな活動をしている方が利用されています。センターでは皆さまの活動をより良くするためのネットワークづくりをお手伝いします。

■　人材紹介システムとは？

男女共同参画社会づくりを進めるために、関連する活動の質を高める専門性を提供できる地域の方々と、その力を必要とする方々を結ぶしくみです。１月より登録者の募集を開始しました。

■　どんな専門性が登録できるの？

子育て支援、再就職支援、DV防止、市民活動支援の分野で活動に貢献できるスキルを求めます。また「チラシのデザイン」「会計・経理」「音楽演奏」など、上記の分野の活動支援になるものでもOKです。

■　登録方法は？～専門性を提供したい方へ～

１.「登録申請書」に必要事項を記入
↓
２.ファックスまたはセンター受付まで持参
↓
３.センター理事会で審査
↓
４.登録承認後ホームページ等で公開

※「登録申請書」はセンター受付またはホームページで配布しています。

■　依頼の方法は？

ー人材を求めている方へー

リストから選んだ登録者に直接依頼してください。以後、契約など手続きや登録者との調整などはすべて依頼者の責任のもとで行います。

■　いつからリストを使えるの？

現在は専門性を提供できる方の募集を行っています。登録された人材リストは４月より公開し、皆さまにご利用いただけるようになります。

（詳細は当センターホームページからもご覧いただけます。）

むさしのヒューマン・ネットワークセンター運営委員募集のおしらせ

男女共同参画社会の実現を目指して活動するセンターの運営や企画などに、所属団体の活動を活かすと共に御協力頂ける団体や関心のある市民の方を募集します。任期は4/1から１年間。申込みは3/31までに当センターへ

■　問合せ･申込み

むさしのヒューマン･ネットワークセンター
TEL:0422-37-3410
E-mail:mhnc@tokyo.email.ne.jp

P.1　人材紹介システム登録開始！　運営委員募集のおしらせ
P.2　【報告】武蔵野市男女共同参画講演会～「自分を守る…誰かのあたりまえで生きないで」
P.3　フィリピンと日本を結ぶ戦争体験者のビデオレター
P.4　・家事を上手に回すためのワンポイント講習＆実践　・親子紙ヒコーキ教室
・丈夫な足の子どもに育てよう　・ライター入門講座
P.5　・フェアトレードカフェ　「むさしの市女性史の会」がスタートしました
P.6　センターの蔵書から～本の紹介～　P.7　平成19年度購入図書・寄贈図書　図書の貸し出し方法
P.8　ミニギャラリー　むさしのヒューマン･ネットワークセンターからのお知らせ

武蔵野市男女共同参画講演会／むさしのヒューマン・ネットワークセンター開設10周年記念事業

「自分を守る・・・誰かのあたりまえで生きないで」

講師　住田裕子（すみた　ひろこ）弁護士

2008年1月19日（水）10:00ー11:30　　武蔵野スイングホールにて

「行列のできる法律相談所」で人気の住田裕子弁護士が武蔵境のスイングホールの演壇に立ちました。「お互い顔の見られる、こんな近いところで講演できて幸せ」とお話が始まり、女性初の法務省民事局付検事・法務大臣秘書官、内閣府男女共同参画会議など数々の審議委員を務め、バリバリのキャリア組かと思いきや、浪人に始まる「挫折の人生」との意外なスタート。東大出でも、どんなに優秀でも「女はいらない」という時代、門戸が開かれていたのは唯一「検事」という職、それも「地方のドサ回り」検事でした。「仕事も子どもも」という、当時は欲張りと言われた思いをサポートしたのは、同窓で同職の夫を働きながら一人で育て上げた義母や、子育てに手を貸してくれた周りの女性、様々な分野で踏んばってきた先輩たち。母世代、先輩世代が男社会の壁に開けた小さな穴を大きく広げ、後に続く女性たちに「国連婦人の10年」「雇用機会均等法」などの風を送った世代の一人が、住田さんだったのです。

「女は陰で夫を支える」という“誰かのあたりまえ”に流されず、周りの協力も得て肩ひじ張らず、そして、決してあきらめず仕事を続けた住田さんの生き方は、会場を埋めた娘世代、同世代、先輩世代と、どの世代の女性をも勇気づけてくれるものでした。

話を聞いていた「娘世代」の学生たちは、どんな感想を持ったでしょうか？

鮮やかなピンクの洋服で登場した住田弁護士はビビットな服の色に負けないくらい明るくて快活な感じ、さらに西の方の出身とあってユーモアある話し口で2時間あっという間でした。一番印象に残ったのは私の母よりちょっと上くらいの年代の住田さんの体験と、私が今感じている社会の中での女性の状況についてのギャップでした。女性の社会進出に関して、今だったらだれもが理不尽と認めることも、少し前までは当たり前だったというのは驚きでした。だから住田さんは早いうちから女性としての自分を意識し、「仕事も子どもも」という道を選んだのだと思いました。

今でも実際はどこまで平等が実現しているのかという疑問はあっても、少なくとも表面上は大きく変わったんだなあと感じました。でも、DVの背景にあるのは不平等な男女の関係。対等な関係はどうしたら作っていけるのだろうと思います。女性をサポートすることはもちろん、社会全体を変えていかなければいけない問題。

「より強く平和を望むのは女性。各分野で活躍する女性が増えれば、『平等→発展→平和』のサイクルが生まれ、『貧困』『不平等』が生みだすテロや暴力のない世の中になる」との住田さんの言葉が印象に残りました。

人間は誰でも攻撃本能を持っている。しかし、社会性を獲得した人間の二つ目の本能は「相手を思いやれる関係」をつくること。人と人とが殺し合うことを“おぞましい”こと、悪いことと認識し、社会性、公共心を育て、平和な世の中にしていくのには「人と人とのつながり」が大切というお話を聞いたとき、いろいろな人が集える場があることとその役割は大きいなと、あらためて感じたのでした。

（東京外国語大学2年　丸田友紀）

ビデオ上映会　フィリピンと日本を結ぶ戦争体験者のビデオレター
―語り継ぐのは、私たち戦争を知らない世代―

2007年12月15日（土）14:00～16:30　　神 直子（Bridge for Peace 主催）

2000年2月、初めてフィリピンを訪れた大学４年生の神さんが出会ったのは、「日本人になんか会いたくなかった」と号泣する初老のフィリピン人女性。家族、親族を目の前で殺されたと語る男性。相対する彼女自身は、太平洋戦争のことを何も知らない。帰国後、日本では自分たちの行なった残虐行為を悔み苦しみながら死んでいった元日本兵がいることを知る。フィリピンでも日本でも、あの戦争はまだ終わっていない。双方の思いを伝えあい互いの苦しみを知ることで、戦争の傷を越え共に平和への道を進んでいけないものか。

一方、ヨーロッパの留学中に出会った同年代のドイツ人女子学生は、第二次大戦中、ナチスドイツがしたことを深く悔いていると語っていた。このギャップは何なのだろう、日本人としてこの「戦争」で何があったのかをきちんと知り、次の世代に語り継いでいくのは「戦争を知らない私たち」世代の責任と、フィリピンと日本の戦争犠牲者をつなぐ活動、Bridge for Peace をたった一人で始めた。

ビデオの中で語っているのは、どこにでもいるごく普通の70～80代の男性たち。淡々と語られる言葉はとても重い。

「戦争は“人が死ぬ”こと。でも、直面しないと分からない」

「ゲリラか民間人かは分からない。分からないから怖いから殺した」

この日、会議室に集まったのは、戦争体験世代、戦後世代の40、50代、そして、神さんより若い学生たち合わせて19名。企画から当日の進行までを大学生が担った。小平から参加の戦争を語り継ぐ会の方は、「若い世代に伝えなくては、でも、どこに行けば若い人たちと出会えるのかと思っていたら、ここにはこんなに…」と、感激の様子。他の戦争体験世代の参加者からも「今、次の世代に伝えなくては」という強い思いが感じられた。

「フィリピンの戦争体験者と元日本兵との温度差、ズレが気になった。元日本兵は命じられてやむを得ず、また、当時の雰囲気、教育で当たり前と思っていた…など、どこか“人ごと”のような感じもした」という若い世代からの感想に80代の体験者から、「当時、差し迫った実感、“戦争＝人が死ぬ”という意識は薄かった。戦争＝“人を殺しに行くこと”など、はっきり言うべき。戦争により強く拒否感をもつのは、やはり女の人。私たちがちゃんと声を上げましょう」との力強い言葉は、若い世代の胸にもストンと落ちたに違いない。悲惨な体験をしながらも、「日本人とのこれからの関係を大事にしていこう」と語るフィリピン人被害者の言葉のとおり、「これから」の平和を目指す第一歩として、この集まりをスタートラインにできたらと思う。

（小境範子）

神さんは1978年生まれ。フィリピンの最貧困家庭でのホームステイ、オーストラリアの有機な生活を実現しているエコビレッジ（Crystal Waters）滞在、アメリカ、ヨーロッパ留学経験を経て、「本当の豊かさ」「オーガニックの心地よさ」がテーマに。企業、NPO、コミュニティカフェ店長、コーディネーターなどを経て、身体と地球に心地よい循環型社会、オーガニックなライフスタイルを提案している Organic Living 発起人。Bridge for Peace の活動も根本のところでつながっている。

家事を上手に回すための ワンポイント講習＆実践

〈持ち込み企画〉

1月31日(木)10:00～12:00　東京第三友の会　武蔵野方面

【内容】

・寝る前に部屋をリセット、朝スッキリスタート
・半乾き雑巾を使っての掃除
・洗濯物はたたんで干しましょう
・お茶と手作りのケーキをいただきながら質疑応答

【主催者コメント】

ひと手間ひと工夫することで、すっきりした暮らしが持続できるという実際の工夫を紹介しました。まずは現状を知って、気づいて改善していくこと。30代会員の実際の朝の時間の流れを例にして、もっと工夫できることはないか、70代会員からの掃除の工夫、かたづけのタイミングなどのアドバイスを聞きあい、今日から始められるひと工夫に、参加した若いお母さんから「なるほど」と納得のいく様子でした。後半はお茶を飲みながら質問に答えました。

【アンケートから】

・初めて参加、生活リズムができていない、少しでもできればと思った。
・講習を聞いて、自分ですぐできることがあるなあと感じた。
・気持ちよく生活しておられることがわかった。自分もできるところから少しずつしていきたい。
・目の前のキリが晴れたようでした。自分でも一つずつやっていけばできるのではと思えてきた。

ライター入門講座 開催しました

センター会議室において、2月4日から25日まで4回にわたって、武蔵野市主催のライター入門講座が開かれました。

講師に日本エディタースクールの西村良平先生を迎え、幅広い年齢の方々20名が「楽しく書ける文章術」について学びました。

親子紙ヒコーキ教室

武蔵野市男女共同参画推進団体活動補助金企画

2月23日(土)10:00～12:00　主催:日本・大空クラブ

「子どものためのオープンハウス」「子ども月間」でおなじみとなった日本・大空クラブの「親子紙ヒコーキ教室」、当センターでは4回目の開催です。代表・古野辰哉さんは読売、日経などの取材も多々受けている有名人。NHK首都圏ニュースにも出演経験があり、紙ヒコーキの良さを武蔵野、日本各地だけでなく海外にも広めたいと、指導やネットワーク作りに熱心に活動されています。今年度は当センターで「日本・イスラエル・パレスチナ・学生会議」とつながった古野さん、来年は「トルコ」とのネットワークをぜひ、とのこと。「あそべえ」や学童などご希望があればどこでも教室を開いてもらえます。持参の紙ヒコーキキットは古野さん設計の「F・Starter」、きちんと調整もしてもらうと気持ちよく大空を飛び続けます。親子で、みんなで、紙ヒコーキを楽しんでみませんか？

今年度最終の教室は3月27日(木)10:00 ～ 12:00 当センター会議室にて。

参加費:500円
(材料費込み)

〈ちょっと気になる定番講座〉

丈夫な足の子供に育てよう
―幼いころから足が基本、大切な靴選び―

3月6日(木)10:00～12:00　主催: 足を守る会

講師:豊田なおこ
(フットセラピスト・ウォーキングアナリスト)

よちよち歩きの赤ちゃん、遊び盛りの子どもたち、子どもたちの足が弱くなっているってホント？　どんな靴を選べばいいの？　丈夫な足の子に育てるには？

そんな若いママたちの疑問に優しく答える豊田さん。お子さん一人ひとりのかわいい足型を取り、具体的なアドバイスにママたちも安心です。

靴が合わない、健康になる歩き方って？など、足のトラブルに困っている大人のための講座もあります。足が気になるアナタ、のぞいてみてはいかがでしょう？

フェアトレード　カフェ

武蔵野市男女共同参画推進団体活動補助金企画

2008年3月3日（月）14:00～17:00　主催：らっこの会

「おいしくて　やさしくて　ちょっといいこと
はじめませんか…？」

そんな言葉に魅かれて学生、大人、親子連れなど28人が集まったセンター会議室は一日だけの小さなフェアトレードカフェに変身。オーガニックのコーヒー・紅茶とチョコレートなどフェアトレードのおいしいお菓子を楽しみながら、三鷹のフェアトレードショップ「るま・ばぐーす」代表の岩佐園子さんから「なぜフェアトレードを選ぶの？」「お店を続ける大変さは？」などのお話を聞き、簡単なワークで「食選びのポイント」「富の分配の不平等」を体感しました。オーガニックコットンの子どもTシャツや小物など展示品を手にとっていただくことで、肌触りのやさしさや無農薬の安心感、手作業の細やかさなどフェアトレード製品の良さも実感していただけたようです。

学内でフェアトレードのコーヒーの普及に努める成蹊大の学生さん、市のバックアップを得てフェアトレードカフェを運営している八王子の学生グループの皆さんなど、あちこちで動き始めているフェアトレードを担う学生グループのネットワークがここでしっかりつながって、今後の動きが楽しみです。

一般的にはまだまだなじみの薄いフェアトレード、お買いものなどを通じ気軽にできる国際協力、そして、生き方そのものを見直すひとつのきっかけとして、広めていきたい消費生活です。あなたも「ちょっといいこと」はじめませんか？

カフェ店員を務めたらっこの会の学生グループ“らっこフェア”のみんな。大学も学年も個性もとりどり、でも、チームワークはばっちり！

「むさしの市 女性史の会」がスタートしました

「むさしの市 女性史の会」が本年度、再編成されました。

平成16年に武蔵野市より発行された『武蔵野市女性史』「聞き書き集」「通史編」の編纂後、私たちの「当時100名以上の方々から、歴史的に大変貴重なお話を伺いつつ、紙面の都合、その他で取り上げられなかった原稿や、取材しきれなかった戦前、戦中、終戦直後の女性たちの思いや暮らし、活動などを再び掘り起こしたい！」「書き残したらもったいない！」という願いからスタートしたのです。

幸い『武蔵野市 女性史』は「総合女性史研究会」2004年版 誌上にも紹介、好評を得ました。特に通史編の「3章、4章の植民地からきた女性たちの過酷な生活と、植民地解放後の活発な活動と生活力の部分は各自治体の女性史でも検討されつつ充分に取り上げられなかった箇所で今後、注目されよう」との紹介がありました。

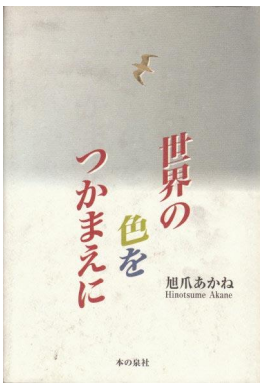
私たちはハードな編纂作業だった疲労が一度に流された思いがし、むさしの市 女性史の会の編成「女性史 第2集」編纂への後押しになったのです。

今「むさしの市 女性史の会」は、1985年以後の歴史も加え、もっと多くの人に呼びかけ一緒に第2集に参加してくださる、女性史に関心のある方を大歓迎しております。ご一緒にいかがですか？　（浜 俊子）

連絡先　TEL 0422-56-2808（矢島）

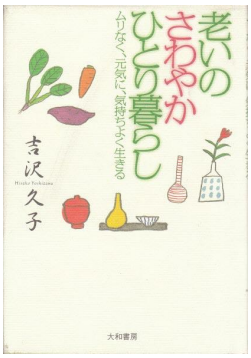
＊市役所西棟7階市政資料コーナーで販売しています。市政資料コーナー、図書館、市民会館、コミュニティセンター、当センターで閲覧できます。

世界の色をつかまえに　　旭爪あかね　　本の泉社



新学期がはじまったばかりの校舎には、沈丁花の香りがほのかに漂っている。研究室に行かなければ、と思うのだが朝の陽ざしをあびるのがつらい。1日のはじまりにひるむのだ。動きたくない。何もしたくない。人生を休憩したい。主人公は大学の研究生活に行き詰まり、登校拒否、アルコール依存と、精神的に追い詰められていく。そのぼんやりとした外の世界に風穴をあける「突破口」となったのは、たまった思いを紙の上に洗いざらい告白していく、そのことによって、生きている実感の持てない閉塞した心と体のもやもやをともかく文字にして身体の外に出していく作業であった。共に教師である両親に対して常に「良い子」であろうとした子ども時代を見つめ直し、試行錯誤しながらも現実の自分を受け入れる道をあゆもうとする過程を、みずみずしい感性で描く。

老いのさわやかひとり暮らし　　吉沢久子　　大和書房



2001年83歳、ひとり暮らしになって18年、良き協力者を得て、仕事も家庭もひとりでこなす。なにより健康と人間関係にめぐまれていることに感謝している。文芸評論家故･古谷綱武氏と結婚後、本格的に“女の暮らし”を考える仕事にかかわり、暮らしを大切にする思いをこめた数々の斬新な発言を続け、現在も執筆、講演などに多忙な毎日をおくっている。(帯より) 私自身も著者の大ファンであり、そのきっぱりとした、いさぎのよい生き方に勇気づけられる。著書に「素敵な老いじたく」(集英社) のほか「ひとりで暮して気楽に老いる」(講談社)「伝え残しておきたいこと」(主婦の友社) など多数ある。ひとりで生きる幸せな“老い”は、男も女も関係なく、実生活の自立が基本と説く。

むりなく、元気に、気持ちよく生きるためのエッセンスにあふれる本です。

ぜーんぶ　わすれた　　絵と文　ベップヒロミ　　さんこう社

「どなたですか？」「わすれて しもうた…」「だれ だっけ？」

老いてすべてを忘れていく祖母。「まっしろな こころにかえって」いく祖母を「大切に心に刻んでおこう」と孫のベップさんはこの絵本を手製本として作り、介護する母に送った。忘れ、忘れられ、消えてしまうとしても、人が生きてきたことは「消し去ることは 誰にもできない…まぎれもない事実」と、シンプルな絵と言葉が深く心にしみる。生まれて、生きて、死んでいくこと、それはそれだけで、とてもすばらしいことなのだと気づかせてくれたこの絵本、生きることがしんどくなったとき出会えてよかった本書です。

ベップさんは、創作活動のかたわら、当センターでも本づくり講座の講師を務めてくださっています。

＊ヒューマン・ネットワークセンターでは購入図書のリクエストを受け付けています。

●平成19年度購入図書●

1	脳と心で楽しむ食生活	家森幸男	NHK出版
2	アカルイうつうつ生活	上野　玲	光文社
3	普通の家族がいちばん怖い	上野　玲	新潮社
4	もう日本を気にしなくなった韓国人	伊東順子	洋泉社新書
5	城山三郎が娘に語った戦争	井上 紀子	朝日新聞社
6	戦争と性　韓国で「慰安婦」と向きあう	高柳美知子　岩本正光編著	かもがわ出版
7	いのちと放射能	柳沢桂子	筑摩書房
8	生きさせろ！難民化する若者たち	雨宮処凛	太田出版
9	地図でみる 日本の女性	雨宮処凛	明石書店
10	地図でみる 世界の女性	ジョニーシーガー	明石書店
11	教室の悪魔	山脇 由貴子	ポプラ社
12	カチャ・クルマン32歳	カチャ・クルマン	新水社
13	セクハラ相談の基本と実際	周藤由美子	新水社
14	医者、用水路を拓く	中村　哲	石風社
15	ベビーシッター・ギン！（1巻～5巻）	大和 和紀	講談社
16	病気にならない277の知恵	マオシン・ニー	阪急コミュニケーションズ
17	自己肯定感の育て方	ほんの木　編	ほんの木
18	丸山晴美の節約生活ドリル	丸山 晴美　著	講談社

●平成19年度寄贈図書から●

こどもとおとなの日本国憲法		武蔵野市発行
女の子に贈る　なりたい自分になれる本	上野千鶴子	学陽書房
生き延びるための思想　ジェンダー平等の罠	上野千鶴子	岩波書店
オニババ化する女たち　女性の身体性を取り戻す	三砂ちづる	光文社
晶子、愛をうたう 劇で見る、らいてう・わか・菊栄との母性保護論争	赤笠清子	梨の木舎
実践リーダーをめざすひとの仕事術 キャロリン・エマーソン	メアリー・ウィリアムズ	新水社
ふたりの夢追い人　遠山進学塾の挑戦	小笠　毅	遠山進学塾
麦畑をかけぬけて　聞き書き清瀬の女たち	清瀬市男女共同参画センター編	
いまも世界のどこかで 拘禁女性に対する性的人権侵害	手塚千砂子　五十嵐二葉 山下明子 アムネスティ日本支部女性と人権チーム	学陽書房
アフガニスタン　山の学校の子どもたち	長倉洋海	偕成社
ルソン島敗残実記。	矢野正美	三樹書房
世界の色をつかまえに	旭爪あかね	本の泉社
現代韓国と女性	春木育美	新幹社
さよならがいえなくて　助けて、哀しみから	水谷修　生徒ジュン	日本評論社
ハッピー・ペットロス 哀しみを幸せに変える、こころの処方箋	阿部佐智子著 阿部知弘・渡辺由香監修	ゴマブックス

このほかにもたくさんの本を寄贈していただきました。ありがとうございました。

センターで読める雑誌・情報誌

＜定期購読＞

◆クロワッサン　◆日経ウーマン　◆季刊 女も男も
◆クレヨンハウス通信　◆月刊女性情報　◆女性展望　◆We Learn
◆ファム・ポリティク　◆婦人公論　◆Wife　◆ふぇみん（婦人民主新聞）

＜寄贈図書＞（不定期・バックナンバーのみのものもあります）

◆婦人の友　◆くらしと教育をつなぐ Ｗｅ　◆ちいさい・おおきい
◆おそい・はやい　◆いきいき

●図書の貸し出し

一人一度に５冊（絵本は２冊）まで。雑誌バックナンバーの貸し出しもあります。貸出期間は２週間。
電話で２週間延長も可。受付で貸出カードに記入してください。
雑誌・図書のリサイクルもご利用ください。

むさしのヒューマン・ネットワークセンターだより 27号　8ページ　NPO法人 女性のスペース「結（ゆい）」 の相談時間の記述に誤りがありました。

正しくは　　「女性のための電話相談」相談専用 03-3229-2619
月曜（18:30～21:00）、水曜（10:00～17:00）

お詫びして訂正いたします。

ミニ・ギャラリー

★　４月以降の予定　★

4月前半　本作りを楽しむ会展　（鳥とすゞの会）
4月後半　平松裕美絵手紙展　（平松裕美）
5月前半　イラスト・クラフト二人展　（渡部匡代・林裕子）
5月後半　シャドーボックス作品展　（中村ひろみ）

★　１～３月の展示から　★

1月前半～　イラスト年賀状とカレンダー＆手作り本展
（ヒサミナナコ）
《２月は「世界へ目を向けよう」月間》
2月前半～　らっこフェア・フェアトレード展（らっこの会）
2月後半～　「世界は今」写真展（中西　桂）
3月後半～　福沢雅子絵手紙展（福沢雅子）

これからのヒューマン・ネットワークセンター

失敗しないデジカメ術

ちゃんと撮ってね
ぼくの入園式！わたしの入学式！

3月21日（金）10:00～12:30　当センターにて
主催：市民パソコンそうだん
講師：八木茂治さん
（シニアSOHOむさしの）
参加費：300円（テキスト代）
申込み：TEL 0422-37-3410
先着10名
デジカメと取扱説明書をご持参ください。
＊お子さんと一緒の参加歓迎です。

わくわくワークショップ

みずき通りをハタで飾ろう！

4月5日（土）の焼いも音楽祭（主催：武蔵境温泉どおり商栄会）にむけて、楽しい春の絵を力いっぱいハタに描こう。
3月22日（土）10:00～13:00
3月29日（土）10:00～13:00、13:30～16:30
対象：4歳～
主催：温泉通り商栄会
講師：岡鼻ミドリ（画家・小学校美術教師）
申込み：温泉通り商栄会会長　小原栄蔵
TEL&FAX　0422-53-7391

～女も男もいきいき暮らせる社会をめざす～
男女共同参画にかかわる分野で当センターを利用するあなたの企画を応援します！

［企画募集要項］
応募資格：武蔵野市を活動範囲とする団体または個人
実施期間：2008年7月1日ー2009年3月31日　　募集締切：5月31日
選考方法：書類選考（当センター理事が審査のうえ3企画を決定）
支援内容：講座・講演会の費用の一部（講師料・保育料など）補助と企画PR
申 込 み：所定の企画書に記入のうえ提出。
企画書フォーム（メールまたは用紙）は当センターで配布します。
問 合 せ：E-mail：mhnc@tokyo.email.ne.jp　TEL：0422-37-3410
※共催・後援についてはご相談ください。

2008年度もオープンハウス（7月）、子どもオープンハウス（8月）、トーク＆シネマを開催予定です。

● 発　　行 ●
むさしのヒューマン・ネットワークセンター
運営協議会会長　岩城末子
武蔵野市境 2－10－27　武蔵境市政センター 2階
電話・FAX　0422-37-3410
E-mail : mhnc@tokyo.email.ne.jp
ホームページアドレス　http://www.mhnc.jp/
センターだより制作協力　　星　詩子

● 利用案内 ●

開館時間　月・火・木・土曜日　9:30～17:00
水・金曜日　9:30～21:00

会議室利用時間
午前10:00～13:00　午後13:30～16:30
夜間17:00～20:30（水・金のみ）

＊予約制で直接センターで2ヶ月前から受け付けます。（無料）